

## 議事概要

### 1 会議の名称

令和7年度第1回長久手市古戦場公園再整備アドバイザー会議

### 2 開催日時

令和7年6月26日（木）午後2時から午後5時10分まで

### 3 開催場所

長久手市役所 北庁舎2階 第5会議室

### 4 出席者（敬称略）

会 長 瀬口哲夫

職務代理者 杉野 丞

委 員 桐原千文、服部 誠、水野智之、水谷栄太郎

事務局 暮らし文化部長 磯村和慶、同次長 高木昭信、  
生涯学習課長 児玉 剛、課長補佐（文化財担当）平岡優一、  
文化財係長 浅見 景、学芸員 山口万里佳

### 5 欠席者（敬称略）

なし

### 6 会議の公開・非公開

公開

### 7 傍聴者

2人

### 8 議題

#### (1) 古戦場公園再整備事業の概要

ア 長久手古戦場記念館の概要

イ 事業の進捗について

#### (2) 展示制作業務について

ア 設計概要及び工程表

イ 映像ソフト

ウ 複製品

エ 展示ケース

オ レギュレーション

### 9 問合せ先

長久手市 暮らし文化部 生涯学習課

電話 0561-56-0627

## 議事要旨

### <会長の選出及び職務代理者の指名>

互選により、会長は瀬口哲夫委員に決定。職務代理者には、杉野丞委員が指名された。

### 会長あいさつ

「小牧・長久手の戦い」は、全国的に知られている事柄である。そのガイダンス施設を作り、全国に情報発信するにふさわしい展示内容にしたい、という市の要請である。委員の皆様からのご意見をよろしくお願いしたい。

### <議題1 古戦場公園再整備事業の概要について>

事務局 資料に沿って説明

委 員 長久手古戦場記念館の利用者は、どのような人を想定しているか。

事務局 まずは、今まで郷土資料室や近隣の歴史系施設を訪れている、歴史に興味関心がある方と、市内の子どもたちに向けて発信していきたい。さらに、商業施設が近く、公園の中にあるという立地を生かし、来館者の裾野を広げていきたい。

委 員 館内のサインや解説文を作るにあたり、色覚特性のある人への配慮は、どのように考えているか。

事務局 ユニバーサルデザインを考慮した色使い、文字の大きさとする予定である。

会 長 視覚障がいへの配慮は、どのようなか。実情として、その方々は、どのような施設を利用されているのか。

委 員 自分が関わっている中では、あいち朝日遺跡ミュージアムなどを訪れている。長久手古戦場記念館の展示には、体験的要素が含まれているので、それを活用して、視覚障がいがある方にも楽しんでもらえるようにすると良い。点字表示をされると良いと思うが、最近は中途失明の方も多く、点字が読めない方もいる。点字に頼らず音声の活用も考えられる。

事務局 現状、点字表記は考えていないが、音声の活用を含めて検討したい。

委 員 この近くでは、愛知県美術館が視覚障がい者向けの鑑賞プログラムを年2回開催している。展示品に触れることができたり、点字などによ

る解説がある。マンパワーも必要になるので、ボランティアに協力いただくことも考えられる。

会 長 緊急時の避難サインも、視覚障がい、聴覚障がいに対応できるように考えておく必要がある。音声や光などの配慮とともに、マニュアル化と訓練も必要である。

委 員 観覧料はどの程度になる見込みか。

事務局 条例で規定した観覧料は、常設展示は上限 5 0 0 円、企画展示は上限 2, 0 0 0 円である。具体的な金額は、指定管理者が決まってからの協議となる。

委 員 有料エリア、無料エリアは、どのように分かれているか。

事務局 地下 1 階の展示室を有料エリア、芝生広場につながる 1 階を無料エリアと想定している。

## <議題 2 展示制作業務について>

### 《ア 設計概要及び工程表》

### 《イ 映像ソフト》

事務局 資料 4 ～ 1 2 に沿って説明

委 員 資料 6 のガイダンス映像のシナリオ No. 61 で、織田信雄が羽柴秀吉と単独講和を結ぶ場面があるが、天正地震のことは触れなくて良いか。

委 員 地震の被害は、秀吉方の地域の方が酷かった、という話はある。

会 長 天正地震が秀吉の判断に何らかの影響を与えたかどうか、確認した方が良い。

会 長 No. 63 で、秀吉が「負けた」と言っているが、史実はどうか。

委 員 長久手の戦いでは負けているが、長い目で見ると負けたとは思っていないと思われる。天正 1 2 年 1 1 月の時点は、秀吉は人質を取っているので、負けたとは思っていないだろう。一方、長久手の戦いでは、かなり被害が出て痛手を被っている。どの時点での言葉か、再度検討が必要である。

会 長 前提条件として、秀吉と家康のパワーの差をまず説明しておかないといけない。家康が最終的に秀吉の家臣として取り込まれていくことの説明がストーリーの中にあっただ方が良い。

委 員 タイトルが『歴史は長久手で動いた』であるので、どう動いたかがストレートに見せられると良い。

委員 長い目で見ると、長久手で家康は負けなかった、ということが大事なポイントである。ここで負けていたら、江戸時代は見えてこない。長久手の戦いは、徳川の譜代が頑張った戦いである。彼らは関ヶ原では活躍できなかったが、長久手では家康を支えた。そういうことが読み取れる構成になると良い。

事務局 いただいたご意見を反映し、構成の見直しをさせていただく。

会長 小牧・長久手の戦いの特徴はどのようなか。

委員 全国戦であり、北陸、四国、関東など各地で行っている。秀吉と家康の兵力差は大きく、秀吉方の全軍が一気に来れば抑えきれないだろうが、全軍を簡単に動かせないように、家康方が各地の大名に働きかけている。関ヶ原の戦いは1日で決着がついているが、小牧・長久手の戦いは、3月から半年以上の間、劣勢でも家康はなんとか渡り歩いている。最近、小牧・長久手の戦いも、天下人を決める大きな戦いであつた、と捉えられている。

会長 小牧・長久手の戦いの特徴を説明しようとする、全国戦であつた様子を示す方が良い。

委員 資料8-2のプロジェクションマッピングの冒頭に全国戦の説明がある。蟹江、美濃の戦いの状況も図やナレーションに加え、地域全体が戦場になったことを示すと分かりやすくなるのではないか。秀吉方と家康方の対立図で、尾張北西や伊勢などを示せば、戦いの状況がより分かりやすくなるのではないか。

委員 展示の論旨、どういったことを伝えていくのか、ということを考えるにあたり、3点ポイントがある。一つ目として、戦いの様子は良く分かる。2点目として、全国戦であつたことから戦いの意味を示すことも展示の中でできる。もう一つ大切な視点として、この合戦が地域や人々にどのような影響をもたらしたか、という視点がある。武将や軍事に重点が置かれ、戦いが賛美されがちだが、一種の英雄史観の扱いにも注意しなければならない。権力者には残酷な側面もある。愛知県史は織豊編が特徴だが、権力の分析や描き方に留意していた。例えば関ヶ原古戦場記念館では、農民の視点での展示もあつた。小牧・長久手の戦いを武将だけで描くのではなく、例えば地域の寺社などがどう捉えていたのか、この戦いで何が変わったのか、なども組み込めると良い。その視点が読み取れる施設になると、展示のモデルになる。

- 会 長 三英傑史観は、三人で戦国時代を終わらせた、ということではないか。庶民にとっても戦いが終わってよかった。庶民を取り上げ過ぎない方が良い。
- 委 員 平和のありかたを、どう捉えるか。権力のある者が押さえることで社会的に安定するが、実質はどういうものなのか。製作者の考え方が展示の端々に出るので、留意されたい。
- 会 長 現在の民主主義から見れば、当時は平等ではないと言えるが、あまり右にも左にも振れ過ぎない方が良い。
- 事務局 この地域の人々も、石碑を建て、口伝や書物で語り継いできた経過がある。それを長久手古戦場記念館でも展示していきたい。
- 会 長 小牧城の天守、岩崎城の櫓の有無、小牧・長久手の戦いから2年後の大坂城の姿など、議論になりやすいところは、慎重に描くようにされたい。
- 委 員 浮世絵などの資料もあるので、実物の画像を入れる方法もある。
- 事務局 実写については、最後の部分で塚などを入れていく予定である。
- 委 員 資料7のシナリオの元となっている「りにもが見た！小牧・長久手の戦い」は、いつ制作された漫画か。「男子は戦国武将が好き～」などの表現が、現在の学校教育の感覚と少し違うように感じる。教育的な立場から見てどうか確認した方が良い。
- 事務局 平成26年度に制作したもので、時間が経過しているため、今の時代に合うものか、学校の先生方にも確認させていただく。
- 会 長 大河ドラマ「どうする家康」は、欣求浄土という大義名分があった。「りにもが見た！小牧・長久手の戦い」のシナリオは、大義名分が見えにくい。
- 委 員 市内の小学生が、何のために戦ったのかを理解できるようにどのように表現していくか、検討されたい。
- 委 員 戦没者の供養は、どなたかされているのか。
- 事務局 色金山歴史公園内に慰霊碑があり、郷土史家が慰霊されている。岩作区でも首塚祭を行われている。
- 会 長 戦いの後、戦死者をどう吊っていたかを示すと良い。家康は相手方の武将を丁重に扱っていたと言われる。石碑は、徳川方の記念であるとともに死者を吊ったものでもある。戦いの後の、地域の人に関わり方や武将同士の対応を紹介すると視野が広がる。

事務局 安昌寺の雲山和尚が戦死者を弔ったことなどを伝えていきたい。

委員 資料８－２について、映像機器は、センサー式とエンドレス再生で、耐久性は変わるか。

事務局 耐久性はさほど変わらない。

会長 音が邪魔にならなければ、エンドレス再生が良いのではないか。

委員 指向性スピーカーが望ましい。

委員 武将の画は、肖像画を素材とする予定か。

事務局 画を描き起こすか、ガイダンス映像の墨絵を使う予定だが、肖像画を借用することも検討する。

会長 両軍の大きさや、秀吉方が尾張に進軍して信雄の領地に入った、ということが分かるようにされたい。

事務局 投影範囲の情報は入れていきたい。

会長 秀吉がなぜ岡崎を攻めようとしたのか、その説明も入れた方が良い。

委員 セリフは史実かどうかのチェックができない。セリフがあることで違和感があるかもしれない。

事務局 進軍の様子を分かりやすく示すという目的に相応しいのか、サンプルを確認しながら検討したい。

会長 天正１２年４月９日の状況は、何を原資料としているか。

事務局 日本戦史を参考にしている。

委員 同時代資料はないため、参考とするのは日本戦史で良いと考えるが、吉村文書、長久手町史などで修正して整えられると良い。

委員 資料９の織田信雄が語る内容だが、大名として存続したものの、割と早くお取り潰しになっている。「誇り高いこと」とは言えないのではないか。

委員 信雄は、天正１１年の段階では信長の後継者となっているが、その後、秀吉との関係が悪化したが、一旦は天下人として安土城に入っている。天正１８年に、秀吉から改易を命じられたが拒否し、家康がとりなして２万石ほどで潰れずに続いた。その辺りの心境を入ると良い。

会長 「我が一族のみ」とすると、織田有楽斎はどうなったか、となる。「戦後」とはどこを指しているのか、など、慎重に言葉を検討されたい。

事務局 言葉を定義できているか、全体を見直していく。

会長 安藤直次について、家康様の息子ではなく、十男と表現すべき。

委員 付家老という言葉があるので、紀州徳川家であることを入れた方が良

い。

会 長 池田恒興の参戦理由は、史実なのか。

委 員 これについては色々な意見があり、資料では明確には出てこない。こうかも考えられるかも知れない、というレベルなので、難しい部分である。

会 長 本人が語る形のため、見る人は本当のことだと思ってしまうので注意が必要である。三好秀次は取り上げないのか。

事務局 武将語りは、長久手合戦図屏風に描かれた人物から選択した。三好秀次は、資料 1 1 の屏風解説の中で、屏風には描かれていないが重要な人物として取り上げたい。

会 長 家紋を入れるなら、その解説も入れて欲しい。

委 員 合戦図屏風の拡大画面の中で、武将の名前が書かれた貼札が読みづらい場合もあるので、現代語訳を付けると良い。

事務局 貼札の現代語訳は検討させていただく。

委 員 尾張藩士が度々訪れていることにも触れてはどうか。

事務局 戦後の供養や尾張藩士が石碑を建て、後世に語り継がれていることについては、「史跡を守る長久手の歴史と文化」のコーナーで紹介したい。

委 員 武将語りの投影位置は、屏風を引きで見たい人と干渉しないようにレイアウトを考慮した方が良い。

会 長 展示物の更新は、開館からどのくらいの時期を想定しているか。

事務局 類似施設では 5 年程度である。予算の範囲内で検討していきたい。

委 員 武将語りの前などの展示ケースには、どのような史料を展示する予定か。常設展示においても実物資料を用いるのか。

事務局 展示制作業務で新たに製作する複製品や長久手市郷土資料室の収蔵品を展示する予定である。複製品が中心となるが、一部実物も展示していきたい。

会 長 資料 1 2 について、クイズの具体例を示せるものはあるか。

事務局 クイズは、郷土史研究会から素材提供を受けながら検討している。5 問をランダムに表示し、中級・上級は 3 択形式とする予定である。正解・不正解にかかわらず解説を表示し、屏風や旗指物などが記憶に残るようにしたい。ゲーム性を持たせて飽きないようにしていく。神経衰弱形式では、家紋が揃った場合に解説カードを取得できるなどの仕

様を検討している。

会 長 長久手合戦図屏風には旗指物が多く描かれている。大將が多数存在することが、この戦いの特徴と言える。

委 員 ゲームがスマートフォン上でプレイできる仕様にする、利便性が高まるのではないかな。

事務局 現時点では、スマートフォン対応は設計に含まれていない。

会 長 「神経衰弱」という表現は、差別用語に該当するおそれがあるのではないかな。

事務局 タイトルは、「家紋合わせ」「旗指物合わせ」等に改めていきたい。

会 長 屏風の解説には、豊臣秀吉、三好秀次も入ると思うが、三好秀次は名前の統一をどうするか、検討されたい。

#### 《ウ 複製品》

事務局 資料13に沿って説明

委 員 尾州愛知郡長久手邑地図は、長久手町史に掲載されているものかな。江戸時代に描かれたものだと思うが、尾張藩士が戦跡を訪れた言わば「戦跡ツアー」を示すものとして、先ほどのような取扱いもできるのではないかな。

事務局 この地図は、町史に掲載されている。当時の地形、状況が分かるものとしても展示したい。

委 員 陣立図は色々なものがあるが、選定理由は何かな。

事務局 長久手町史や愛知県史を参考に選定した。

委 員 蓬左文庫においても関連研究が進められている。陣立図、絵図は何を複製するのか、検討されると良い。

会 長 作られた時期を記載して欲しい。「戦跡ツアー図」である絵図も時期によって違いがあるかもしれない。陣立図についても、長久手だから見れるものである必要がある。

委 員 鸚鵡籠中記には、どのようなことが書かれているかな？

事務局 古戦場を巡ったことが書かれている。絵図と合わせ、史跡を守る長久手の歴史と文化のコーナーでも、企画展示でも展示することができ、様々な展開ができると考えられる。

会 長 甲冑についても、製作年代・名称・伝承等を明記して欲しい。

事務局 解説文に反映していきたい。



## 《エ 展示ケース》

事務局 資料14に沿って説明

委員 展示ケースには全て飛散防止フィルムを貼付するのか。調湿材を入れる場所はあるか。

事務局 飛散防止フィルムまたは低反射フィルムのいずれかを貼付する予定である。調湿材を入れる部分を設けている。

委員 ケースはクマヒラ製と聞いた。他市だが、調湿がうまくいかなかった事例がある。どのように改善したか、情報収集しておくが良い。ケースを開閉する機構、車椅子ユーザーの視認性確保のためのケースの高さにも留意が必要である。

委員 展示台を斜めにするなどの工夫が必要な場合もある。

委員 環境測定については、開館前に実施すべきである。借用品を扱う以上、管理体制は信用に関わる問題となる。

事務局 年1回の環境測定を予定している。

## 《オ レギュレーション》

事務局 資料15に沿って説明

委員 記念館の対象は、一般及び小学校5～6年生とのことだが、一般向けの解説文の基準として、中学3年生までに習う知識を前提に記述すると良い。モニターとして、一般の方に見てもらえると良い。キャプションやパネルは修正可能な形とし、表現はわかりやすく、凝りすぎないようにすること。英語表記があると、日本語での解説では分かりにくくても、英語で理解できることもある。また、パネル以外にも人による解説も併せて検討されたい。

会長 解説文に関するルールが非常に重要である。英語表記のルールも同様である。「なぜここに展示されているのか」など、来館者が知りたいことを記載すべきである。海外の方が「小牧・長久手の戦い」をどう評価するか、意見を聴取してみると良い。

委員 子ども向けの解説は、「子どもに知って欲しいこと」を抽出して構成することもある。

オブザーバー 各委員のご意見を整理し、次回に向けて準備を進めていただきたい。記念館完成後の活用も見据え、企画展示のスパンも含めた検討

が必要である。持続可能な展示体制を目指すべきである。

会 長 展示の更新や、展示替えの考え方について、担当者が変わっても申し送りが可能なようにしておくことが重要である。

オブザーバー 詳細に渡る議論に感謝する。国史跡のガイダンス施設として、展示内容が全体として、史跡そのものを紹介できているか、その構成要素である御旗山等や来歴、現地の理解に資するものであるかという視点で、展示内容を深めて欲しい。国指定の史跡は全国で約2,000件あるが、「古戦場」は8件のみであり、そのうち3件が愛知県内に存在する。この数字が歴史的価値を物語っている。愛知県に集まっている重層性を伝える必要がある。日本全体の中での位置づけが示されることは、地元にとっても有意義である。また、家康方と秀吉方の色分けがキーカラーとなるのであれば、他の展示物とも統一感を持たせると良い。小牧・長久手の戦いの中での長久手の戦いを中心としつつも、歴史の大局的な評価の中で、戦いをめぐる人々の動きを位置づけられると、歴史の転換点であったことが分かるのではないか。例えば、秀吉は龍泉寺までしか到達しておらず、本陣に引き返している。「家康と秀吉の直接対決」と表現している一方で、秀吉は長久手までは来ていない、ということを正しく理解いただく必要がある。どんな武将がこの地を駆け巡っていたのか、現在とオーバーラップするような展示に努めていただきたい。

会 長 他に意見がなければ、以上で令和7年度第1回長久手市古戦場公園再整備アドバイザー会議を終了する。